一戸建ての住宅・共同住宅の住戸部分用（新築）

|  |  |
| --- | --- |
| 住戸番号 |  |
| 建築物の名称 |  |
| 建築物の所在地 |  |
| 設計者氏名 |  |
| 審査員氏名 |  |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 認定事項 | 確認項目※ | 設　計　内　容　説　明　欄　　　※ | 設計内容確認欄 |
| 項目 | 設計内容 | 記載図書 |
| ０．基本事項 | 計算方法 | 用いた基準 | □ 住宅・非住宅計算方法　□誘導仕様基準 | □計算書□ |  |
| 基本事項 | 地域の区分 | □　１地域　　□　２地域　　□　３地域□　４地域　　□　５地域　　□　６地域□　７地域　　□　８地域 |
| 年間日射地域区分 | （　　　　　）地域　注）下記設備のいずれかを設置した場合のみ* 太陽光発電を採用
* 太陽給湯設備を採用
 |
| 建て方 | * 一戸建ての住宅　　　　□　共同住宅等
 |
| 構造 | □　木造住宅（　□　軸組構法　　□枠組工法　）□　鉄骨造住宅□　鉄筋コンクリート造（組石造含む。）住宅□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| １．躯体の外皮性能等 | 住宅・非住宅計算法 | 外皮平均熱貫流率 | 平均熱貫流率（UA） （　　　　）【W/m2K】 | □計算書□仕上表□建具表□矩計図□ |  |
| 外皮平均日射熱取得率 | 冷房期の平均日射熱取得率 (ηAC)　（　　　　）【-】暖房期の平均日射熱取得率 (ηAH)　（　　　　）【-】 |
| 誘導仕様基準 | 外皮の断熱性能等 | □外皮の熱貫流率の基準に適合□断熱材の熱抵抗の基準に適合□構造熱橋部の基準に適合（鉄筋コンクリート造等のみ） |
| 開口部の断熱性能等 | □緩和措置あり 　□外気に接する床（5％緩和）□窓の断熱（2％緩和）□窓の日射（4％緩和） |
| ２．一次エネルギー消費量 | 一次エネルギーに係る基本事項 | 外皮計算法 | □外皮面積を用いた計算法　外皮面積の合計（　　　　　　）【m2】□外皮面積を用いない計算法 | □計算書□ |  |
| 居室等の面積・構成 | ・床面積の合計　　　　　（　　　　　）㎡・主たる居室の面積　　　（　　　　　）㎡・その他の居室の面積　　（　　　　　）㎡　 | □面積表□平面図□ |
| 通風の利用 | * 通風を利用
 | □計算書□ |
| 蓄熱の利用 | * 蓄熱の利用
 |
| 床下空間の利用 | * 床下空間を経由して外気を導入する換気方式の利用
 |
| 住宅・非住宅計算法 | 暖房設備 | ・暖房方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　）・暖房機器の種別・性能等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ |  |
| 冷房設備 | ・冷房方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　）・冷房機器の種別・性能等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 換気設備 | ・換気方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　）・換気設備の性能等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）□熱交換換気設備の設置　性能等（　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ |  |
| 　 | 給湯設備 | □　給湯熱源機　（　　　　　　　　　　　）配管方式　　□先分岐方式　　□ヘッダー方式　分岐後（　　　　）　水栓　　　　□節湯水栓等を使用　　　　　　　　□台所　□浴室　□洗面　　浴漕　　　　□高断熱浴漕を使用 | □機器表□平面図□ |  |
| 照明設備 | □　主たる居室（　　　　　　　　　　　　　　　　）□　その他居室（　　　　　　　　　　　　　　　　）□　非居室　　（　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ |  |
| その他設備 | □　太陽光発電設備の設置□　コージェネレーションシステムの設置 | □機器表□ |  |
| 誘導仕様基準 | 暖房設備 | ・暖房方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）・暖房機器の仕様等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ |  |
| 冷房設備 | ・冷房方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）・冷房機器の仕様等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |  |  |
| 換気設備 | ・熱交換換気設備の有無　□有　□無・換気設備の仕様等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ |  |
| 照明設備 | □　全ての照明設備がLED又は同等以上 | □平面図□ |  |
| 給湯設備 | □　給湯熱源機の種類等（　　　　　　　　　　　　）・所定の省エネ対策の実施　□　ヘッダー方式　分岐後配管径13A以下　□　浴室シャワーの節湯水栓等の使用　□　高断熱浴槽の採用 | □機器表□平面図□ |  |
| ３.その他基準(第1又は第2のいずれかに適合) | 第1の1 | 再生可能エネルギー利用設備の設置 | ・再生可能エネルギー利用設備が設けられていること□太陽光発電設備□風力・水力・バイオマス等の発電設備□太陽光・地中熱利用設備□河川水熱等を利用する設備□薪・ペレットストーブ等の熱利用・一戸建ての住宅の場合は以下に適合□低炭素化促進設計一次エネルギー消費量が低炭素化促進基準一次エネルギー消費量を超えないこと。 | □機器表□平面図□ |  |
| 第１の2（右記項目のうち1項目以上適合） | 節水措置 | □　節水便器の設置□　節水水洗の設置□　電気食器洗い機の設置 | □機器表□平面図□ |  |
| 雨水等の利用 | □　雨水利用□　井戸水利用□　雑排水利用 |
| 一次エネ削減 | □　ＨＥＭＳの採用 |
| 蓄電池使用 | * 再生可能エネルギーと連系した定置型蓄電池の採用
 |
| ヒートアイランド対策 | 敷地緑化等□　緑地又は水面の面積が敷地面積の１０％以上 |
| 敷地の高反射性塗装□　日射反射率の高い塗装の面積が敷地面積の１０％以上 |
| 屋上緑化等□　緑化を行う又は日射反射率等の高い屋根材を使用する面積が屋根面積の２０％以上 |
| 壁面緑化等□　壁面緑化を行う面積が外壁面積の１０％以上 |
| * 緑化等面積率＋日射反射面積率＋屋根緑化等面積率×１/２＋壁面緑化面積率≧１０％
 |
| 劣化軽減 | □　劣化対策等級３以上 |
| 木造住宅・建築物 | □　木造住宅 |
| 高炉セメント等の利用 | □　高炉セメント使用の有無□　フライアッシュセメント□　高炉スラグ又はフライアッシュを混和材として利用 |
| 電気自動車充放電設備の設置 | * 電気自動車等と建築物間で充放電等するための設備を設置
 |  |
| 第２ | 所管行政庁の認めるもの | □　（　　　　　　　　　　　　　　　　） | □ |
| ４．基本方針 |  |  | □　基本的方針に照らし合わせて適切である | □ |  |
| ５．資金計画 |  | 建築に係る資金計画 | 　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □申請書 |  |

一戸建ての住宅・共同住宅の住戸部分用（増築・改築用）

|  |  |
| --- | --- |
| 住戸番号 |  |
| 建築物の名称 |  |
| 建築物の所在地 |  |
| 建築士氏名 |  | 建築士番号 |  |
| 審査員氏名 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 建築基準法への適合性の確認 | 建築基準法の規定違反の有無　　　　□無 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 認定事項 | 確認項目※ | 設　計　内　容　説　明　欄　　　※ | 設計内容確認欄 |
| 項目 | 設計内容 | 記載図書 |
| ０．基本事項 | 計算方法 | 用いた基準 | □　住宅・非住宅計算法　□誘導仕様基準 | □計算書□ |  |
| 基本事項 | 地域の区分 | □　１地域　　□　２地域　　□　３地域□　４地域　　□　５地域　　□　６地域□　７地域　　□　８地域 |
| 年間日射地域区分 | （　　　　　）地域　注）下記設備のいずれかを設置した場合のみ* 太陽光発電を採用
* 太陽給湯設備を採用
 |
| 建て方 | * 一戸建ての住宅　　　　□　共同住宅等
 |
| 構造 | □　木造住宅（　□　軸組構法　　□枠組工法　）□　鉄骨造住宅□　鉄筋コンクリート造（組石造含む。）住宅□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| １．躯体の外皮性能等 | 住宅・非住宅計算法 | 外皮平均熱貫流率 | 平均熱貫流率（UA） （　　　　）【W/m2K】 | □計算書□仕上表□建具表□矩計図□ |  |
| 外皮平均日射熱取得率 | 冷房期の平均日射熱取得率 (ηAC)　（　　　　）【-】暖房期の平均日射熱取得率 (ηAH)　（　　　　）【-】 |
| 誘導仕様基準 | 外皮の断熱性能等 | □外皮の熱貫流率の基準に適合□断熱材の熱抵抗の基準に適合□構造熱橋部の基準に適合（鉄筋コンクリート造等のみ） |
| 開口部の断熱性能等 | □緩和措置あり 　□外気に接する床（5％緩和）□窓の断熱（2％緩和）□窓の日射（4％緩和） |
| ２．一次エネルギー消費量 | 一次エネルギーに係る基本事項 | 外皮計算法 | □外皮面積を用いた計算法　外皮面積の合計（　　　　　　）【m2】□外皮面積を用いない計算法 | □計算書□ |  |
| 居室等の面積・構成 | ・床面積の合計　　　　　（　　　　　）㎡・主たる居室の面積　　　（　　　　　）㎡・その他の居室の面積　　（　　　　　）㎡　 | □面積表□平面図□ |
| 通風の利用 | * 通風を利用
 | □計算書□ |
| 蓄熱の利用 | * 蓄熱の利用
 |
| 床下空間の利用 | * 床下空間を経由して外気を導入する換気方式の利用
 |
| 住宅・非住宅計算法 | 暖房設備 | ・暖房方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　）・暖房機器の種別・性能等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ |  |
| 冷房設備 | ・冷房方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　）・冷房機器の種別・性能等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
|  | 換気設備 | ・換気方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　）・換気設備の性能等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）□熱交換換気設備の設置　性能等（　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ |  |
| 給湯設備 | □　給湯熱源機　（　　　　　　　　　　　）配管方式　　□先分岐方式　　□ヘッダー方式　分岐後（　　　　）　水栓　　　　□節湯水栓等を使用　　　　　　　　□台所　□浴室　□洗面　　浴漕　　　　□高断熱浴漕を使用 | □機器表□平面図□ |  |
| 照明設備 | □　主たる居室（　　　　　　　　　　　　　　　　）□　その他居室（　　　　　　　　　　　　　　　　）□　非居室　　（　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ |  |
| その他設備 | □　太陽光発電設備の設置□　コージェネレーションシステムの設置 | □機器表□ |  |
| 誘導仕様基準 | 暖房設備 | ・暖房方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）・暖房機器の仕様等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ |  |
| 冷房設備 | ・冷房方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）・冷房機器の仕様等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 換気設備 | ・熱交換換気設備の有無　□有　□無・換気設備の仕様等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ |  |
| 照明設備 | □　全ての照明設備がLED又は同等以上 | □平面図□ |  |
| 給湯設備 | □　給湯熱源機の種類等（　　　　　　　　　　　　）・所定の省エネ対策の実施　□　ヘッダー方式　分岐後配管径13A以下　□　浴室シャワーの節湯水栓等の使用　□　高断熱浴槽の採用 | □機器表□平面図□ |  |
| ３.その他基準(第1又は第2のいずれかに適合) | 第1の1 | 再生可能エネルギー利用設備の設置 | ・再生可能エネルギー利用設備が設けられていること□太陽光発電設備□風力・水力・バイオマス等の発電設備□太陽光・地中熱利用設備□河川水熱等を利用する設備□薪・ペレットストーブ等の熱利用・一戸建ての住宅の場合は以下に適合□低炭素化促進設計一次エネルギー消費量が低炭素化促進基準一次エネルギー消費量を超えないこと。 | □機器表□平面図□ |  |
| 第１の2（右記項目のうち1項目以上適合） | 節水措置 | □　節水便器の設置□　節水水洗の設置□　電気食器洗い機の設置 | □機器表□平面図□ |  |
| 雨水等の利用 | □　雨水利用□　井戸水利用□　雑排水利用 |
| 一次エネ削減 | □　ＨＥＭＳの採用 |
| 蓄電池使用 | * 再生可能エネルギーと連系した定置型蓄電池の採用
 |
| ヒートアイランド対策 | 敷地緑化等□　緑地又は水面の面積が敷地面積の１０％以上 |
| 敷地の高反射性塗装□　日射反射率の高い塗装の面積が敷地面積の１０％以上 |
| 屋上緑化等□　緑化を行う又は日射反射率等の高い屋根材を使用する面積が屋根面積の２０％以上 |
| 壁面緑化等□　壁面緑化を行う面積が外壁面積の１０％以上 |
| * 緑化等面積率＋日射反射面積率＋屋根緑化等面積率×１/２＋壁面緑化面積率≧１０％
 |
| 劣化軽減 | □　劣化対策等級３以上 |
| 木造住宅・建築物 | □　木造住宅 |
| 高炉セメント等の利用 | □　高炉セメント使用の有無□　フライアッシュセメント□　高炉スラグ又はフライアッシュを混和材として利用 |
| 電気自動車充放電設備の設置 | * 電気自動車等と建築物間で充放電等するための設備を設置
 |  |
| 第２ | 所管行政庁の認めるもの | □　（　　　　　　　　　　　　　　　　） | □ |
| ４．基本方針 |  |  | □　基本的方針に照らし合わせて適切である | □ |  |
| ５．資金計画 |  | 建築に係る資金計画 | 　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □申請書 |  |

共同住宅（共用部分）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 認定事項 | 確認項目※ | 設　計　内　容　説　明　欄　　　※ | 設計内容確認欄 |
| 項目 | 設計内容 | 記載図書 |
| １．一次エネルギー消費量 | 空調 | 空調ゾーン | ・標準入力法入力シート様式2-1による | □機器表□系統図□平面図□□ |  |
| 外壁構成 | ・標準入力法入力シート様式2-2による |
| 窓仕様 | ・標準入力法入力シート様式2-3による |
| 外皮仕様 | ・標準入力法入力シート様式2-4による |
| 熱源入力 | ・標準入力法入力シート様式2-5による |
| 二次ポンプ | ・標準入力法入力シート様式2-6による |
| 空調機 | ・標準入力法入力シート様式2-7による |
| 換気 | 換気対象室 | ・標準入力法入力シート様式3-1による |
| 給排気送風機 | ・標準入力法入力シート様式3-2による |
| 換気代替空調機 | ・標準入力法入力シート様式3-3による |
| 照明 | 照明 | ・標準入力法入力シート様式4による |
| 給湯 | 給湯対象室 | ・標準入力法入力シート様式5-1による |
| 給湯機器 | ・標準入力法入力シート様式5-2による |
| 昇降機 | 昇降機 | ・標準入力法入力シート様式6による |
| 太陽光 | 太陽光発電等 | ・標準入力法入力シート様式7-1による |
| コジェネ | ｺｰｼﾞｪﾈﾚｰｼｮﾝ設備 | ・標準入力法入力シート様式7-3による |

非住宅用（新築）

|  |  |
| --- | --- |
| 建築物の名称 |  |
| 建築物の所在地 |  |
| 設計者氏名 |  |
| 審査員氏名 |  |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 認定事項 | 確認項目※ | 設　計　内　容　説　明　欄　　　※ | 設計内容確認欄 |
| 項目 | 設計内容 | 記載図書 |
| ０．基本事項 | 計算方法 | 用いた計算法 | □　標準入力法　　□　モデル建物法 | □入力シート□建築概要書□平面図□断面図□ |  |
| 基本事項 | 地域の区分 | □　１地域　　□　２地域　　□　３地域□　４地域　　□　５地域　　□　６地域□　７地域　　□　８地域 |
| 階数 | ・地上（　　　）階、地下（　　　）階 |
| 敷地面積 | （　　　　　　　　　）【㎡】 |
| 延べ面積 | （　　　　　　　　　）【㎡】 |
| 年間日射地域区分 | （　　　　　　　　　）地域注）太陽光発電又は太陽熱利用設備導入時のみ |
| 地域熱供給等利用 | ・他人から供給された熱の一次エネ換算値　冷熱（　　　　　　）、温熱（　　　　　　） |
| １．標準入力法 | 室仕様 | 室仕様 | ・標準入力法入力シート様式1による | □機器表□系統図□平面図□□ |  |
| 空調設備 | 空調ゾーン | ・標準入力法入力シート様式2-1による |
| 外壁構成 | ・標準入力法入力シート様式2-2による |
| 窓仕様 | ・標準入力法入力シート様式2-3による |
| 外皮 | ・標準入力法入力シート様式2-4による |
| 熱源 | ・標準入力法入力シート様式2-5による |
| 2次ポンプ | ・標準入力法入力シート様式2-6による |
| 空調機 | ・標準入力法入力シート様式2-7による |
| 換気設備 | 換気室 | ・標準入力法入力シート様式3-1による |
| 換気送風機 | ・標準入力法入力シート様式3-2による |
| 換気空調機 | ・標準入力法入力シート様式3-3による |
| 照明設備 | 照明 | ・標準入力法入力シート様式4による |
| 給湯設備 | 給湯室 | ・標準入力法入力シート様式5-1による |
| 給湯機器 | ・標準入力法入力シート様式5-2による |
| 昇降機 | 昇降機 | ・標準入力法入力シート様式6による |
| 太陽光 | 太陽光発電 | ・標準入力法入力シート様式7-1による |
| コジェネ | ｺｰｼﾞｪﾈﾚｰｼｮﾝ設備 | ・標準入力法入力シート様式7-3による |
| PAL＊ | 非空調外皮 | ・標準入力法入力シート様式8による |
| ２．モデル建物法 | 基本情報 | 建築物用途等 | ・モデル建物法入力シート様式Aによる | □機器表□系統図□平面図□□ |  |
| 計算対象部分面積 |
| 空調対象床面積 |
| 外周長 |
| 非空調コア部 |
| 外皮仕様 | 開口部仕様 | ・モデル建物法入力シート様式B1による |
| 断熱仕様 | ・モデル建物法入力シート様式B2による |
| 外皮 | ・モデル建物法入力シート様式B3による |
| 空調設備 | 空調熱源 | ・モデル建物法入力シート様式C1による |
| 空調外気処理 | ・モデル建物法入力シート様式C2による |
| 空調ポンプ | ・モデル建物法入力シート様式C3による |
| 空調送風機 | ・モデル建物法入力シート様式C4による |
| 換気設備 | 換気 | ・モデル建物法入力シート様式Dによる |
| 照明設備 | 照明 | ・モデル建物法入力シート様式Eによる |
| 給湯設備 | 給湯 | ・モデル建物法入力シート様式Fによる |
| 昇降機 | 昇降機 | ・モデル建物法入力シート様式Gによる |
| 太陽光 | 太陽光発電 | ・モデル建物法入力シート様式Hによる |
| コジェネ | ｺｰｼﾞｪﾈﾚｰｼｮﾝ設備 | ・モデル建物法入力シート様式Iによる |
| ３.その他基準(第1又は第2のいずれかに適合) | 第1の1 | 再生可能エネルギー利用設備の設置 | □太陽光発電設備□風力・水力・バイオマス等の発電設備□太陽光・地中熱利用設備□河川水熱等を利用する設備□薪・ペレットストーブ等の熱利用 | □機器表□平面図□ |  |
| 第１の1（右記項目のうち1項目以上適合） | 節水措置 | □　節水便器の設置□　節水水洗の設置□　電気食器洗い機の設置 | □機器表□平面図□ |  |
| 雨水等の利用 | □　雨水利用□　井戸水利用□　雑排水利用 |
| 一次エネ削減 | □　ＢＥＭＳの採用 |
| 蓄電池使用 | 再生可能エネルギーと連系した定置型蓄電池の採用 |
| ヒートアイランド対策 | 敷地緑化等* 緑地又は水面の面積が敷地面積の１０％以上
 |
| 敷地の高反射性塗装□　日射反射率の高い塗装の面積が敷地面積の１０％以上 |
| 屋上緑化等□　緑化を行う又は日射反射率等の高い屋根材を使用する面積が屋根面積の２０％以上 |
| 壁面緑化等□　壁面緑化を行う面積が外壁面積の１０％以上 |
| 緑化等面積率＋日射反射面積率＋屋根緑化等面積率×１/２＋壁面緑化面積率≧１０％ |
| 木造住宅・建築物 | □　木造建築物 |
| 高炉セメント等の利用 | □　高炉セメント使用の有無□　フライアッシュセメント□　高炉スラグ又はフライアッシュを混和剤として利用 |
| 電気自動車充放電設備の設置 | * 電気自動車等と建築物間で充放電等するための設備を設置
 |
| 第２ | 所管行政庁の認めるもの | □　（　　　　　　　　　　　　　　　　） | □ |
| ４．基本方針 |  |  | □　基本的方針に照らし合わせて適切である | □ |  |
| ５．資金計画 |  | 建築に係る資金計画 | 　（　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □申請書 |  |

非住宅用（増築・改築等）

|  |  |
| --- | --- |
| 建築物の名称 |  |
| 建築物の所在地 |  |
| 建築士氏名 |  | 建築士番号 |  |
| 審査員氏名 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 建築基準法への適合性の確認※ | 建築基準法の規定違反の有無　　　　□無 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 認定事項 | 確認項目※ | 設　計　内　容　説　明　欄　　　※ | 設計内容確認欄 |
| 項目 | 設計内容 | 記載図書 |
| ０．基本事項 | 計算方法 | 用いた計算法 | □　標準入力法　　□　モデル建物法 | □入力シート□建築概要書□平面図□断面図□ |  |
| 基本事項 | 地域の区分 | □　１地域　　□　２地域　　□　３地域□　４地域　　□　５地域　　□　６地域□　７地域　　□　８地域 |
| 階数 | ・地上（　　　）階、地下（　　　）階 |
| 敷地面積 | （　　　　　　　　　）【㎡】 |
| 延べ面積 | （　　　　　　　　　）【㎡】 |
| 年間日射地域区分 | （　　　　　　　　　）地域注）太陽光発電又は太陽熱利用設備導入時のみ |
| 地域熱供給等利用 | ・他人から供給された熱の一次エネ換算値　冷熱（　　　　　　）、温熱（　　　　　　） |
| １．標準入力法 | 室仕様 | 室仕様 | ・標準入力法入力シート様式1による | □機器表□系統図□平面図□□ |  |
| 空調設備 | 空調ゾーン | ・標準入力法入力シート様式2-1による |
| 外壁構成 | ・標準入力法入力シート様式2-2による |
| 窓仕様 | ・標準入力法入力シート様式2-3による |
| 外皮 | ・標準入力法入力シート様式2-4による |
| 熱源 | ・標準入力法入力シート様式2-5による |
| 2次ポンプ | ・標準入力法入力シート様式2-6による |
| 空調機 | ・標準入力法入力シート様式2-7による |
| 換気設備 | 換気室 | ・標準入力法入力シート様式3-1による |
| 換気送風機 | ・標準入力法入力シート様式3-2による |
| 換気空調機 | ・標準入力法入力シート様式3-3による |
| 照明設備 | 照明 | ・標準入力法入力シート様式4による |
| 給湯設備 | 給湯室 | ・標準入力法入力シート様式5-1による |
| 給湯機器 | ・標準入力法入力シート様式5-2による |
| 昇降機 | 昇降機 | ・標準入力法入力シート様式6による |
| 太陽光 | 太陽光発電 | ・標準入力法入力シート様式7-1による |
| コジェネ | ｺｰｼﾞｪﾈﾚｰｼｮﾝ設備 | ・標準入力法入力シート様式7-3による |
| PAL＊ | 非空調外皮 | ・標準入力法入力シート様式8による |
| ２．モデル建物法 | 基本情報 | 建築物用途等 | ・モデル建物法入力シート様式Aによる | □機器表□系統図□平面図□□ |  |
| 計算対象部分面積 |
| 空調対象床面積 |
| 外周長 |
| 非空調コア部 |
| 外皮仕様 | 開口部仕様 | ・モデル建物法入力シート様式B1による |
| 断熱仕様 | ・モデル建物法入力シート様式B2による |
| 外皮 | ・モデル建物法入力シート様式B3による |
| 空調設備 | 空調熱源 | ・モデル建物法入力シート様式C1による |
| 空調外気処理 | ・モデル建物法入力シート様式C2による |
| 空調ポンプ | ・モデル建物法入力シート様式C3による |
| 空調送風機 | ・モデル建物法入力シート様式C4による |
| 換気設備 | 換気 | ・モデル建物法入力シート様式Dによる |
| 照明設備 | 照明 | ・モデル建物法入力シート様式Eによる |
| 給湯設備 | 給湯 | ・モデル建物法入力シート様式Fによる |
| 昇降機 | 昇降機 | ・モデル建物法入力シート様式Gによる |
| 太陽光 | 太陽光発電 | ・モデル建物法入力シート様式Hによる |
| コジェネ | ｺｰｼﾞｪﾈﾚｰｼｮﾝ設備 | ・モデル建物法入力シート様式Iによる |
| ３.その他基準(第1又は第2のいずれかに適合) | 第1の1 | 再生可能エネルギー利用設備の設置 | □太陽光発電設備□風力・水力・バイオマス等の発電設備□太陽光・地中熱利用設備□河川水熱等を利用する設備□薪・ペレットストーブ等の熱利用 | □機器表□平面図□ |  |
| 第１の1（右記項目のうち1項目以上適合） | 節水措置 | □　節水便器の設置□　節水水洗の設置□　電気食器洗い機の設置 | □機器表□平面図□ |  |
| 雨水等の利用 | □　雨水利用□　井戸水利用□　雑排水利用 |
| 一次エネ削減 | □　ＢＥＭＳの採用 |
| 蓄電池使用 | 再生可能エネルギーと連系した定置型蓄電池の採用 |
| ヒートアイランド対策 | 敷地緑化等* 緑地又は水面の面積が敷地面積の１０％以上
 |
| 敷地の高反射性塗装□　日射反射率の高い塗装の面積が敷地面積の１０％以上 |
| 屋上緑化等□　緑化を行う又は日射反射率等の高い屋根材を使用する面積が屋根面積の２０％以上 |
| 壁面緑化等□　壁面緑化を行う面積が外壁面積の１０％以上 |
| 緑化等面積率＋日射反射面積率＋屋根緑化等面積率×１/２＋壁面緑化面積率≧１０％ |
| 木造住宅・建築物 | □　木造建築物□ |
| 高炉セメント等の利用 | □　高炉セメント使用の有無□　フライアッシュセメント□　高炉スラグ又はフライアッシュを混和剤として利用 |
| 電気自動車充放電設備の設置 | * 電気自動車等と建築物間で充放電等するための設備を設置
 |
| 第２ | 所管行政庁の認めるもの | □　（　　　　　　　　　　　　　　　　） | □ |
| ４．基本方針 |  |  | □　基本的方針に照らし合わせて適切である | □ |  |
| ５．資金計画 |  | 建築に係る資金計画 | 　（　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □申請書 |  |

備考　１　「建築物の名称」欄には、建築物が特定できる名称を記入してください。同一敷地内に複数の建築物が存する場合には、記号等を用いて区別してください。未定の場合は、その旨を記載してください。

２　「建築物の所在地」欄には、建築物が特定できる地名地番及び住居表示が実施されている場合は当該住居表示を記入してください。

３　「審査員氏名」欄には、登録住宅性能評価機関等における審査の場合に、審査を行う審査員がその氏名を記載してください。

４　※の付されている欄は、設計者等が記入してください。

５　「設計内容説明欄」の「設計内容」欄には、今回計画に該当する内容のチェックボックスに「✓」マークを入れて下さい。また、カッコ書きがあるものには、その概要を記載してください。

６　「設計内容説明欄」の「記載図書」欄には、今回計画に該当する内容が記載等されている図書等のチェックボックスに「✓」マークをいれて下さい。

７　「設計内容確認欄」は、審査を行う者がその左の欄の記載事項を確認したことを記録するために用いてください。

８　様式内の欄に書ききれない場合は、別紙を用いることができます。この場合にあっては、別紙に番号等を付し、該当する欄に当該番号等を記載してください。